

## FIFA ワールドカップ日本代表における筑波大学蹴球部の貢献について

サッカーのワールドカップは4年に一度開催される世界最大のスポーツの祭典です。2026 年 6 月 11 日から 7 月 19 日にかけて、第 23 回目の FIFA ワールドカップが米国、カナダ、メキシコの北米 3 か国で共同開催されており、日本はグループ F でオランダ、チュニジア、スウェーデンと対戦予定です。本学卒業生として、選手としては谷口彰悟選手、テクニカルスタッフを中心に本学卒業生、在学が日本代表に関わっています。



日本代表テクニカルスタッフらと筑波大学のサポートチーム

### ●筑波大学蹴球部と日本代表について

1878 年に体操伝習所(のちの東京高等師範学校体育専修科、現・筑波大学)が創設され、教科の一つにサッカーが取り入れられるなど、長きにわたり日本サッカー界を牽引する組織として、プロ選手の輩出のみならず、指導者、審判、協会幹部の育成や、学生主体による組織運営のモデルケース構築などを通じて多大な貢献を果たしています。日本代表の分析にあってはその黎明期である 2002 年の日韓ワールドカップの頃から本学が中心的に関わっている。

今大会の日本代表では、本学卒業生の谷口彰悟選手が選手として出場するだけでなく、分析を担うテクニカルスタッフ 6 名のうち、本学の卒業生・修了生は 5 名にのぼります。また、メディカルスタッフとして、卒業生 1 名が参加予定です。

さらに日本代表の分析サポート業務に関しては、これまでで最多の28名の本学現役学生が携わっています。このような規模の態勢は、3年以上前から準備を始めていて、今回のワールドカップでのサポート・分析を目指しての態勢構築となっていました。

●今大会における筑波大学蹴球部の体制について

これまで本学蹴球部ではパフォーマンスチームを設け、対戦相手のシステムや戦術、選手の特徴、セットプレーなどの分析を行ってきました。

その経験を基に、日本代表のテクニカルスタッフの分析をサポートするべく、今大会の対戦相手の映像の加工や分析のためのデータの抽出などを行っています。試合当日もリアルタイムで分析を行う予定です。

さらに、今大会からは参加チーム数が32か国から史上最多の48か国へと増えたことによって、対戦可能性のあるチームの分析に係る作業量・作業時間も増大する見込みです。そのため、テクニカルスタッフの戦略立案のための効率的・効果的な情報収集のために、分析サポートは非常に重要であると言えます。

●サッカーにおける分析の重要性について

監督や選手の試合中の感覚での判断に頼るだけでなく、テクニカルスタッフによる試合映像や数値化された分析などに基づいて対戦相手チームや選手の特徴や強み、弱みを明らかにすることができます。その分析結果をもとに、事前の練習内容に落とし込むことや、先発・交代選手の選定、試合中の戦術などの判断材料として生かすことができ、勝率をより高めることができます。

【問い合わせ先】

筑波大学広報局報道係

kohositu@un.tsukuba.ac.jp